

---

## 消防学校救急科研修での集団災害机上訓練の取り組み

(佐々木秀章ほか. 日本集団災害医学会誌 16: 206-209, 2011)

2012年5月11日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

### 【要旨】

消防機関には災害に対する様々な取り組みが求められているが、特に小規模消防では職員の教育は困難な状況にある。このために沖縄県消防学校では救急科研修で集団災害について系統的に学ぶため、総論に加えてトリアージ、無線運用訓練を行い、その後地域に根差した2シナリオを用いて3回の机上訓練を行っている。学生は外傷患者の観察・判断・処置のみならず、時間経過とともに移動する患者状態を記載した絵札により現場、救護所、搬送医療機関への流れを通して災害管理の全体像や病院のシステムを学び、さらには県内の最新医療機関情報やマスコミ対応の注意点を身につけることが出来る。訓練後のアンケートでは学生の満足度は高いものであるが、今後の課題も指摘された。

### 【対象】

沖縄県消防学校の救急科学生。例年32~35名で平均年齢は26~28歳。県内各消防・海上保安庁職員で約半数は初任科終了直後であり現場経験はなく、他の者も救急隊としての経験はない。

### 【方法】

平成18年度より救急科研修250時間のうち9時間を集団災害に充て、あらかじめ総論1時間、トリアージに関して1時間の講義を行い、日を改めて1日(7時間)で机上訓練を実施した。

### 【机上訓練】

マグネット付き絵札を想定に従って経時的に動かしていくもので、通信機は簡易無線を用いた。患者人形は手作り、おもてにSTART式所見、うらにJPTEC準拠の所見を記載しており、現場想定ではおもてを、救護所想定ではうらをみるルールとした。

シナリオは沖縄本島内で皆が容易に想像できる幹線道路上とした。シナリオ1は都市部で、シナリオ2は僻地の北部で救急医療資源が貧しいわりに交通量が多く、容易に渋滞を生じる地区での大型バスと乗用車の多数傷病者交通事故とした。

### 【結果】

内容ごとの満足度を5段階評価でアンケートした。5段階評価は各項目とも4.4~4.8であり、座学も含めて低い項目はなかった。

### 【今後の課題】

この訓練は現場を知らない初任者が半数を占めるが、シナリオの繰り返しにより次第に円滑な流れが得られ学習効果が高いものの、他職種の参加がないために異なる立場からの見方が不十分で、他機関、特に行政や病因への理解を深めるという点で課題が残る。

また、ドクターヘリ運用や黒タグの取り扱いについて県メディカルコントロールとの連携をもって災害時運用の方針を決定し、本訓練に取り入れることと、各職場からの上級職への同様の研修も課題である。

### 【考察】

救急医学のBSL2日目に、我々の班はDVDとスライドをみて救急搬送された患者への対応について学んだ後に、ロールプレイングを行った。実際に行ってみると、焦ってしまい、どこに何があるのか、患者の何を確認すべきなのか、など色々忘れてしまっていた。災害などにおける救急搬送への対応は普段から体にしみこませておかないと役に立たないことを実感した。

今回の訓練は、訓練終了後に学生とスタッフの間で、検証・質疑応答・フィードバックを行っていて、これは有効なものであり、定期的に繰り返す必要があると感じた。